

性教育への取り組み

性

教育といえば皆さんどういったものを想像されるでしょうか？

昔でいう「純潔教育」のようなものでしょうか？小学校高学年で女子だけが集められて行われた月経についての指導でしょうか？はたまたずばり避妊教育のようなものでしょうか？

性教育という言葉は1970年代の初めより普及、定着した用語です。狭い意味では二次成長の発現や生殖機能の成熟、受精や妊娠、性器(生殖器)の構造や月経、射精、性行動、性感染症など直接、性に関する事柄を内容としています。現在では広く性行動による感染、妊娠やその結果生ずる人工妊娠中絶などを認識し、回避する態度や望ましい人間関係を築く能力の育成なども含めた概念でとらえられ、その推進が図られています。



性に関する教育は学校、家庭、地域社会それぞれに役割分担があると思います。家庭では多くの場合、親が自分の子に対して親の自由な意図で教育を行い、子供の人格の基礎を育てていきます。しかし、学校は教師が他人の子供に対して、集団あるいは個人を対象にして教育を行いますので、教師個人の意図や見解によって自由に教育活動を行うことは許されません。

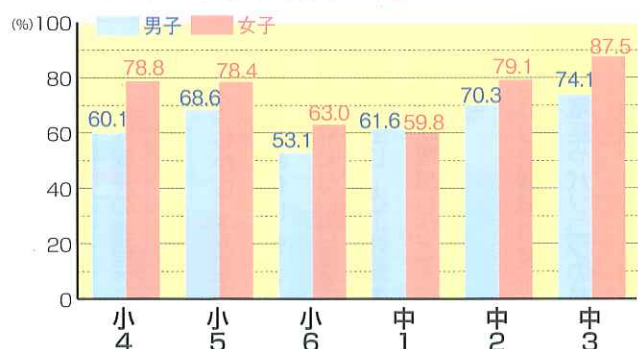
その基準として文部科学省で定められた学習指導要領に基づいて行われます。

次ページに、教育委員会の「学校保健・安全の手びき」より参照します。

文責：佐賀県医師会性教育対策委員会
大隈 良成

思春期のころ

■異性に興味・関心を持ったことがある



■特定異性との交際



出典：東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会「児童・生徒の性」(2005年調査)

性教育の大切なこと



1 学校全体の指導計画に基づく組織的・計画的な指導を行っているか

2 内容・教材等について教職員の共通理解の得られるものであるかどうか

3 学習指導要領に照らして、子供の発達段階に沿った時期と内容で実施しているか

4 保護者や地域の理解の得られる内容、方法であるか

5 集団指導と個別指導とを区別しているか

性に関する教育の基本的な考え方

1 人格の

完成を

目指す



生命や人格の尊重、男女平等の精神など基本的な人権尊重の精神に基づいて人格の完成を目指す。

そのため、子供に対して、人間の

性に関する事柄、性行動に伴う

危険（リスク）を正しく理解させ

るとともに、その前提となる自尊

感情（セルフエスティーム）や人間

関係を築く資質や能力を育成す

る。人間としての生き方、家族や

社会の一員としての在り方などに

ついて学ばせ、自他の生命や人格

を尊重する態度を養う。

2 健康の

自己管理

能力を

育成

する



学校では、教育を通して健康の大切さを認識するとともに、

健康に関する子どもの自己管理

能力の育成を図ることがねらい

である。性に関する教育もその

観点から取り組む。

3 現代的

課題に

対応する

性教育



現代的課題としては、性感染

症、人工妊娠中絶、援助交際（売

買春）、出会い系サイト等での

被害などがあげられる。

エイズや
性感染症及び
望まない
妊娠の予防

知っておこう
HIV



若者の性のネットワークの発達やエイズ、性感染症、妊娠に関する危険（リスク）意識の欠如、知識不足や誤解から、今後もHIV感染、性感染症、妊娠中絶など引き続き発生することが懸念される。

このため、学校においては、発達段階に応じて、性行動に伴う危険（リスク）について、正しく理解させ、それを予防する知識や態度、行動を育てることが重要である。特に性的接触が主な感染経路であるエイズについての教育は必要である。

子どもに対して、人間の性行動に対する適切な意思決定や行動選択の能力を育てる必要がある。子どもがエイズ、性感染症、妊娠の危険（リスク）についての正しい知識、検査や相談等に関する情報、相互の人格を尊重する豊かな人間関係を構築する指導が大切である。

性に関する環境及び情報への対処

子供は成長の過程で、社会環境や人間関係の中で性意識を形成していく。しかし、子どもの成育環境の急激な変化によって、精神的な発達が伴わない性意識・性行動の変化が生じ、人工妊娠中絶術や性感染症が増加したことが指摘されている。

こうした環境の変化としては、携帯電話やパソコンの普及による有害情報や性産業、出会い系サイトへの接触、青少年漫画における性描写の氾濫とその安易な販売などの誤った情報からの影響や危険（リスク）意識の欠如やピアプレッシャー（性行動を行うことが普通という仲間の圧力）の増大などが指摘されている。

したがって、「性に関する教育」においては、これらのことを十分意識して、子どもに対しては、幅広い視野から危険（リスク）を認識させて、それを回避する態度を育てるとともに、地域社会とも連携して、そうした環境の是正についても、取り組みを進める必要がある。

若者の性の状況



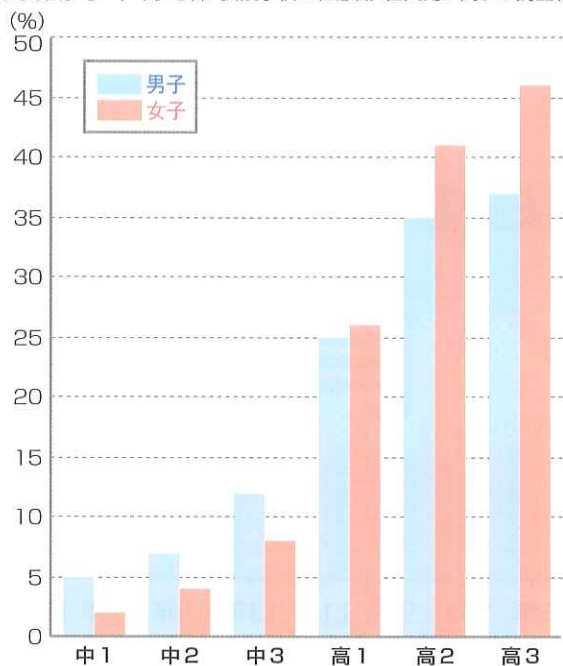
右ページが学校現場における性教育の指針ですが、冒頭にも述べたように学校における教育は学習指導要領に沿って行われなければなりません。

一方において、産婦人科や泌尿

器科医療の現場で見る若者の性の現状は、学習指導要領をはるかに超えています。高校生(時には中学生)が望まない妊娠で人工妊娠中絶を希望して来院したり、またクラミジアや淋菌感染

性交経験率(2002年)

東京都幼・小・中・高・心障・養護学校の性意識・性交動に関する調査報告



などの性感染症で来院すること
も増えてきています。

全国調査でも高校3年生の性交経験率は40%にせまる勢いで、しかも女子の方が経験率が高いという現状です。又、中学生に中学生がセックスすることはどう思うかとアンケートを取ると20~30%の生徒が容認しています。しかもその同じ中学生に高校生がセックスをすることをどう思うかと問えば40~60%が容認と、容認率が倍になります。

若者の性活動の特徴

- 初交年齢の早期化
- 高校3年生で男女とも約30~40%
- 特に女子高校生は1年生の夏に多い
- 中学生の性の指導は3年生で必要
- 交友レベルの相手と性交渉を行う傾向
- 多数の相手と行う、相手の多様化
- 性交までの付き合い期間の短縮化
- 情報源は雑誌、インターネット、ビデオ

活発化、ネットワーク化、無防備化

セックスに対する許容度の変化

中学生のセックスに対する許容度

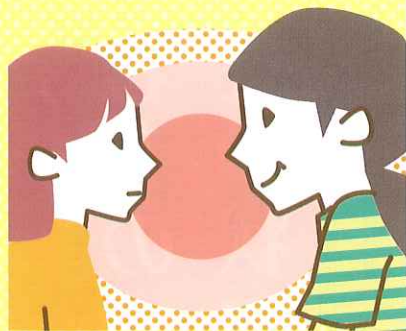
木原雅子先生資料より



高校生のセックスに対する許容度

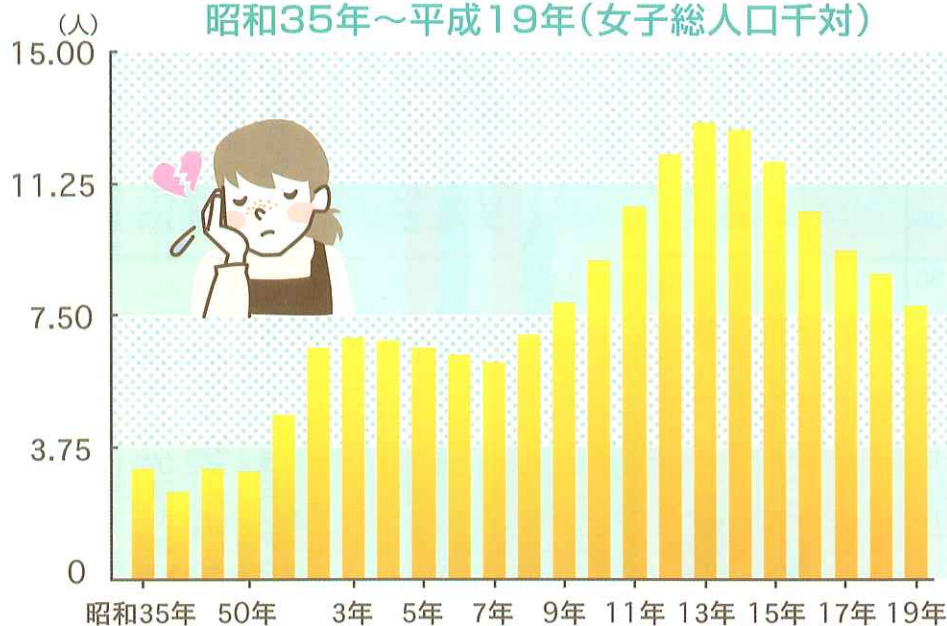


つまり、今の中学生は高校生になったらセックスをしてもいい、いや、セックスしないと遅れているといった間違った知識がすでに刷り込まれているようです。また初交年齢(初めてセックスをした年齢)についてのアンケートでは、一番多いのは16歳です。次が17歳、15歳です。つまり中学校卒業から高校1年生の間で初めてのセックスを経験する子どもたちが多いという現実です。



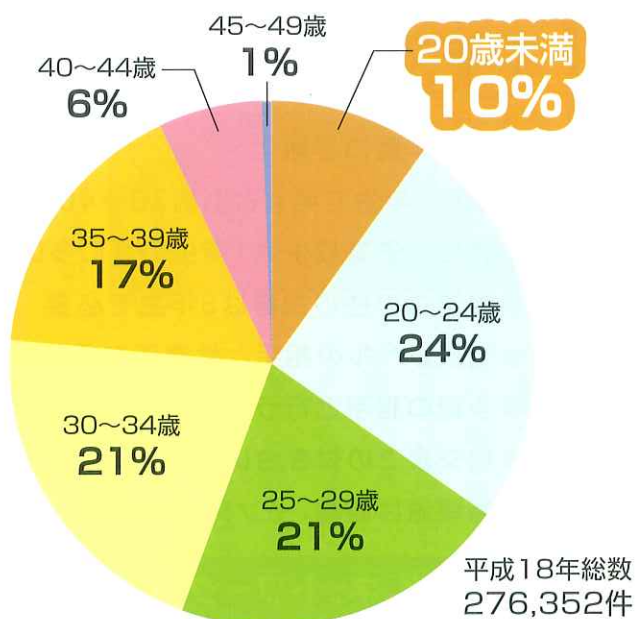
■10代の人工妊娠中絶実施率

昭和35年～平成19年(女子総人口千対)



ところが学習指導要領では中学生に避妊法を具体的に教えることは出来ません。中学校では性交とかセックスという言葉も使えません。では何と言うかという「性的接触」と文言が規定されています。

■年齢階級別 人工妊娠中絶件数



こうした現状と合わない矛盾点も多々感じますが、学校ではやはり学習指導要領にそって性教育をするしかありません。

佐賀県医師会では平成18年度佐賀県内の10代人工妊娠中絶率が全国ワースト1になつてしまったことに衝撃を受け、平成21年9月より学校医が希望校へ出向き中学2年生に性教育をする取り組みを始



めました。従来、熱心な養護教諭や地域の助産師、産婦人科医師にまかされ、学校による温度差がみられた性教育ですが、来年度からは佐賀県内の全ての中学2年生に同じ教材に基づいた性教育が受けられるように佐賀県や県教育庁に働きかけています。

5年後か10年後かわかりませんが、佐賀県内の10代人工妊娠中絶術が日本で一番少なくなる日を夢見て、行政、学校現場、家庭、地域、医師会がスクラムを組み、未来の宝である子ども達を何とか守っていければと思います。



参考資料・学校保健・安産の手引き
(佐賀県教育委員会体育保健課)